

令和元年6月25日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04073

研究課題名(和文) 島嶼への結婚移住をめぐる比較研究-フィリピン人を中心に

研究課題名(英文) A Comparative Study on the Filipino Marriage Immigrants in Remote Islands of Japan

研究代表者

野入 直美 (NOIRI, Naomi)

琉球大学・人文社会学部・准教授

研究者番号：90264465

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：徳之島のフィリピン人の文化継承は、カトリックは幼い頃に実践されているが、限定的であることが明らかとなった。介護労働については、現在40～50代の女性で日本人男性と結婚し、2010年のホームヘルパー2級講座が、彼女らが介護職に就く契機となっており、受講者のすべてが介護職に残っているわけではないが、介護が社会保険に加入できる職であることが自分の老後にメリットがあると自覚していることがわかった。

濟州島の教会には、結婚移民、移住労働者、留学生が集っている。NANPHIは非宗教のグループとして複数の移民支援組織と関わり、カトリック系と非カトリック系が機能分担していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

全国的に、島嶼に着目したフィリピン人、在日外国人研究はほぼ皆無である。従来の在日フィリピン人研究を調査地の特徴によって大別すると、1985年以降の行政仲介婚を契機とする「農村散住型」の研究と、商業圏や工業地帯における大量の、かつ多様な成り立ちのフィリピン人を対象とする「都市集住型」の研究とに分かれる。沖縄の先島地域で見出された「島嶼散住型」の特徴は、空間的に閉ざされ、専門的な支援機構が乏しい中で、当事者と地元住民とが限られた資源を巧みに動員し、内発的なネットワークを編み上げてきたプロセスであった。本研究では、地域固有の文脈と島嶼性という枠組みの両方を重視しつつ、比較分析を行った。

研究成果の概要(英文)： Regarding the cultural inheritance of Filipinos in Tokunoshima, some toddlers could have chance to touch the Christian culture, although the cultural inheritance is quite limited. Regarding the Filipino care workers in Tokunoshima, main group is consisted with the age 40 to 50 women who has a Japanese husband, who learned on the home helper second class course in 2010 and they recognize the merit to be a care worker on their own future on aging.

There are the catholic network in Jeju island in which marriage immigrants, workers and oversea students get together. Besides, NANPHI is a non-catholic network in Jeju island.

研究分野：社会学

キーワード：フィリピン結婚移民 徳之島 島嶼 介護労働 文化継承 濟州島 ネットワーク

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

全国的に、「島嶼」に着目したフィリピン人、在日外国人研究はほぼ皆無である。従来の在日フィリピン人研究を調査地の特徴によって大別すると、1985年以降の行政仲介婚を契機とする「農村散住型」の研究と、商業圏や工業地帯における大量の、かつ多様な成り立ちのフィリピン人を対象とする「都市集住型」の研究とに分かれる。沖縄の先島地域で見出された「島嶼散住型」の特徴は、空間的に閉ざされ、専門的な支援機構が乏しい中で、当事者と地元住民とが限られた資源を巧みに動員し、支援の文脈に回収されない内発的なネットワークを編み上げてきたプロセスであった。そのような展開は、他の島嶼にも見いだせるのか。本研究では、地域固有の文脈と島嶼性という枠組みの両方を重視しつつ、比較分析を行った。

本研究に先立って、申請者(野入)と研究分担者(高畑)、研究協力者(松田、矢元)は、沖縄の先島地域におけるフィリピン人女性の移動と社会関係についての実証的研究を実施した(JSPS基盤(C)「沖縄・先島地域のトランスナショナルな移動と社会関係 - フィリピン人女性を中心に」2015 - 2017年度)。そこで明らかになったことは、石垣島、宮古島とその周辺離島においては、行政や業者によるフィリピン人女性の仲介婚はほぼ皆無で、興行労働経験のある女性たちを中心とする連鎖的な結婚移住(紹介婚)がなされてきたこと、島嶼という移動の自由が制限された空間の中で、フィリピン人女性同士、さらに当事者と地元の住民とが「顔を突き合わさざるを得ない関係」をもち、カトリック教会を重要な結節点として相互行為を展開していることであった。島ごとに、信仰の集いや元興行労働の同僚同士など、複数の集団からなるフィリピン・ネットワークが存在し、互助と親睦に優れた機能を発揮しているのだが、その効果は第二世代、とくに家と島を離れた若者たちには及んでいないことも見えてきた。課題として、沖縄の先島における事例のみでは、「島嶼散住型」の汎用性のある類型抽出は行えないことがわかってきた。

本研究では、在住外国人に占めるフィリピン人比率が突出して高い島嶼として、鹿児島県大島郡の徳之島を調査フィールドとした。さらに研究グループに、在韓フィリピン人の調査研究に着手してきた永田貴聖を迎え、韓国の済州島との国際比較を含めた、広域的な島嶼への結婚移住に関する実証的研究を行った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、鹿児島県大島郡と韓国の済州島において、フィリピン人女性の結婚移住と社会関係についての実証的研究を行い、沖縄・先島地域における研究結果と比較分析を行うことで、「島嶼への結婚移住」「島嶼散住型の定住と社会関係」についての広域的、汎用的な類型を抽出することである。具体的課題は、(1)彼女らの移動と島嶼型散住の実態の比較研究を行う、(2)地域社会の固有の文脈、済州島の移住労働者の問題や沖縄本島の米軍基地がもたらす影響を射程に含めた分析を行う、(3)カトリック信仰に基づく自助と支援のネットワークを、フィリピン人女性と第二世代の若者たちを中心に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

徳之島では、フィリピン女性たちの集いに参加して参与観察を行い、アンケート調査、インタビュー調査を実施した。また、複数のフィリピン女性が勤務している介護施設を訪問し、施設長など関係者からの聞き取りを行った。徳之島町、伊仙町役場を訪問し、行政の視点から見えてくる地域社会とフィリピン女性について、聞き取りを行った。

石垣島では、カトリック石垣教会の定点観測と資料収集、関係者の聞き取りによる情報の更新を行った。

済州島では、関係機関への聞き取り、インタビュー調査、カトリック教会のミサなどの参与観察を行った。

4. 研究成果

徳之島班は、2016年8月24日から27日、2018年8月4日から7日と11月24日から25日に徳之島での現地調査を実施し、介護施設の職員、町役場の職員、教会関係者、フィリピン人女性へのインタビュー調査、及び、フィリピン人女性たちが企画運営に携わったフィリピン・クリスマス・フェスタでの参与観察を行った。

徳之島のフィリピン人女性の子どもへのフィリピン文化の継承については、カトリックの教えの継承は主に子どもが幼い頃実践されているが、限定的であることが明らかとなった。介護労働については、現在40～50代の女性たちで、日本人男性と結婚し、2010年のホームヘルパー2級講座が、彼女らが介護職に就く契機となっており、受講者のすべてが介護職に残っているわけではないが、介護が社会保険に加入できる職であることが自分の将来(老後)にメリットがあると自覚していることがうかがわれた。

済州島のカトリック教会には、フィリピン人結婚移民だけでなく移住労働者、留学生などが集っている。一方で、NANPHILは非宗教のグループとして複数の移民支援組織と関わっており、カトリック系のネットワークと非カトリック系のネットワークが機能を分担していることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

- 1.野入直美「島嶼におけるフィリピン女性たちのネットワークとリーダーシップ - 徳之島、宮古島、石垣島の比較」『移民研究』(15)27 - 38 2019年3月 査読無
- 2.高畑幸「離島におけるフィリピン結婚移民の定住と職業生活 1990年代に来日した女性たちの介護職への従事」『移民研究』(15)15 - 26 2019年3月 査読無
- 3.矢元貴美「徳之島に暮らすフィリピン人女性の子どもたちの進路とフィリピン文化の継承」『移民研究』(15)3 - 14 2019年3月 査読無
- 4.松田良孝「カトリック石垣教会60周年記念誌にみる沖縄県石垣市在住フィリピン人の状況」『移民研究』(15)39 - 53 2019年3月 査読無
- 5.高畑幸「東海地方における移住労働者のエスニシティ構成の『逆転現象』 静岡県焼津市の水産加工労働者の事例」『日本都市社会学会報』(36)147-163 2018年9月 査読有

〔学会発表〕(計15件)

- 1.野入直美「島嶼におけるフィリピン女性たちのネットワークとリーダーシップ」第24回フィリピン研究会全国フォーラム 場所：名古屋大学 2019年6月23日 一般
- 2.高畑幸「離島におけるフィリピン結婚移民の定住と職業生活 1990年代に来日した女性たちの介護職への従事」第24回フィリピン研究会全国フォーラム 場所：名古屋大学 2019年6月23日 一般
- 3.矢元貴美「日本の離島におけるフィリピン人結婚移民」第24回フィリピン研究会全国フォーラム 場所：名古屋大学 2019年6月23日 一般
- 4.永田貴聖「韓国・済州島におけるフィリピン人移住者の関係性」日本移民学会大会 2019年6月30日 場所：天理大学 一般
- 5.永田貴聖「韓国・済州島済州市におけるフィリピン人移住者の社会関係について」日本文化人類学会第53回研究大会 2019年6月1日2日 場所：東北大学 一般

6.高畑幸「静岡県焼津市の水産加工業で働くフィリピン日系人 雇用と移住のプロセスを中心に」『移民政策学会 2018 年冬季大会 シンポジウム「さかなと外国人」』場所:静岡県立大学 2018 年 12 月 15 日 招待

7.高畑幸: "Gendered Migration of Filipinos to Japan and its Consequences, 1987-2018" シンポジウム: The 5th International Symposium on Transnational Migration and Qiaoxiang Studies" (五邑大学主催) 五邑大学(Wuyi University)(中国の広東省) 2018 年 12 月 8 日 招待

8.高畑幸「移民二世代の進学問題とキャリア フィリピン人」シンポジウム「岐路に立つ日本と世界 多文化共生を問う」(宇都宮大学主催) 宇都宮大学 2018 年 12 月 3 日 招待

9.高畑幸「多様性を大切に作る地域づくりー静岡市・駿河共生地区の多世代・多文化交流を中心に」第 23 回静岡健康・長寿学術フォーラム(静岡県主催)場所:静岡県コンベンションアーツセンター/グランシップ 2018 年 11 月 17 日 招待

10.永田 貴聖 Developing Filipino Spaces in Seoul, South Korea.

4th Philippine Studies Conference in Japan. 場所: 広島大学 2018 年 11 月 17 日 一般

11.高畑幸"Wives, Children and Nikkei's: Filipinos Coming to Japan based on the Attributions" World Social Science Forum 2018, invited panel "Current Situation of Social Inclusion for Immigrants" (主催: International Science Council) 場所: 福岡国際会議場 2018 年 9 月 28 日 招待

12.永田 貴聖 Recent Situation of Filipino Social Relationships in Kyoto City.

Netherlands Organization for Scientific Research & JSPS Conference. Media, migration and nationalism: Comparing European and Asian Experiences and Perspectives. アーツ千代田 2018 年 9 月 21 日 招待

13.高畑幸 Japanese Policy on Children with a Migrant Background: An Overview"

International Conference: Children with a Migrant Background of Korea (主催: National Research Council for Economics, Humanities and Social Sciences (Korea))

場所: Korea Chamber of Commerce and Industry 2018 年 8 月 23 日 招待

14.高畑幸「EPA 介護福祉士の職場定着要因の分析 - フィリピン人介護労働者の追跡調査から」日本移民学会・第 28 回年次大会 南山大学 2018 年 6 月 24 日 一般

15.矢元貴美「フィリピンにルーツを持つ子どもの離島における社会関係 - 沖縄県に暮らす障がいのある小学生の事例から - 」第 21 回フィリピン研究会全国フォーラム 場所: 鹿児島大学 2016 年 6 月 26 日 一般

〔図書〕(計 2 件)

1.永田貴聖 2019 年 4 月「送り出し社会と移住先社会の構造と規範のなかで生きるフィリピン移住者の戦術」大賀哲・蓮見二郎・山中亜紀編『共生社会の再構築 シティズンシップをめぐる包摂と分断』法律文化社、129-146 頁

2.永田貴聖 2019 年 4 月「国流に集まる人々」牧里毎治 監修、公益財団法人とよなか国際交流協会編ほか『外国人と共生する地域づくり 大阪・豊中の実践から見えてきたもの』明石書店、125-139 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：高畑 幸

ローマ字氏名：TAKAHATA, Sachi

所属研究機関名：静岡県立大学

部局名：国際関係学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：50382007

研究分担者氏名：永田 貴聖

ローマ字氏名：NAGATA, Atsmasa

所属研究機関名：国立民族学博物館

職名：機関 研究員

研究者番号：80551093

(2)研究協力者

研究協力者氏名：矢元 貴美

ローマ字氏名：YAMOTO, Kimi

研究協力者氏名：松田 良孝

ローマ字氏名：MATSUDA, Yoshitaka